

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	31399	地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)	担当課	高根支所 地域振興課		内線
	枝番					3722
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	3 民生費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 社会福祉費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3 老人福祉費		D	その他事業	
根拠計画		地域振興計画				
市長公約		5 ・医療・福祉を充実させます ・地域住民が互いに支えあう仕組みや、緊急時の支援を万全にするため、独居老人、要援護者等への地域福祉体制を整備します。				

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	対象者数	10,000 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・明るい長寿社会と豊かな老後を目指す。		
概要	事業の実施手法(手段)	・高齢者の生きがいと健康づくり、また高齢社会を支える上で大きな役割を担っている老人クラブに対し、福祉の向上のために事務局人件費を助成し、老人クラブを通じて、各種活動の育成、支援を行う。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・市連合長寿会に対して、事務局人件費を助成。				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	連合長寿会会員数	人	目標値	10,500	10,500	10,000
		実績値		10,405	9,796	-	
	算出根拠等			達成率(%)	99	93	-
	活動指標	連合長寿会単位老人クラブ数	クラブ	目標値	150	150	143
		実績値		150	143	-	
	算出根拠等			達成率(%)	100	95	-
	活動指標	連合長寿会加入率	%	目標値	42.0	43.0	40.0
		実績値		41.7	39.3	-	
	算出根拠等		連合長寿会加入者数/65歳以上人口	達成率(%)	99	91	-
	活動指標			目標値			
		算出根拠等		実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
	成果指標			目標値			
算出根拠等			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	420	420	420	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)			163	162	280
		一般財源			257	258	140
	コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	4,884	5,185	5,753
受益者		高根区会員(4月1日現在)	(B)	86	81	73	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・高齢者が住み慣れた地域で、他の高齢者や住民と交流を持ちながら健康で日常生活を送るための活動として、市民の感心は高く、地域活動にも根付いている。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市は、老人福祉法(第十条の三第一項)の規定により、老人クラブなどの老人福祉を増進する目的とする事業を行う者の活動の連携及び調整、地域の実情に応じた体制整備に努めなければならないため。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・老人クラブ加入者は、減少傾向であるため、役員等により、組織や活動の見直しに取り組んでいる。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・支所地域長寿会事務局の人員費補助として、最小限の経費である。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・長寿会活動に参加することにより、高齢者の健康増進と閉じこもり予防が図れた。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		8 / 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)

・新規加入者が少なく、連合長寿会会員の減・単位クラブの減が課題となっている。健康で生きがいを持って生活するために、地域とのつながりも深めながら、今後一層の充実と活発な取り組みが必要である。

(参考) H23事業評価結果(二次評価)

・平成22年度事業評価において、老人クラブ(連合長寿会)の加入率は低下していることから、長寿会に加入しやすい体制の構築を促すなどの取組みが必要であると指摘をしているところであるが、連合長寿会に加盟しない地域もあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、地域としての必要性も含め、今後のあり方について検討する必要がある。

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

・本補助金を有効に活用するため、老人クラブにおける活動内容の見直しを進めながら事業継続し、組織の育成と活動の支援を行う。

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・老人クラブ活動費補助金(31336事業)との一本化を図る。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・市域全体としては、会員数・クラブ数は減少傾向にあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、老人クラブ活動費補助金との一本化については、今後の支援のあり方も含めて検討する必要がある。									

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	61199	地域活性化施設振興事業	担当課	高根支所 地域振興課		内線
	枝番					3710
予算	会計	1	一般会計	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費	○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	商工費	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	商工振興費	D	その他事業	
根拠計画		地域振興計画				
市長公約		2	商工業・地場産業をさらに発展させます ◎景気回復を最重要課題として取り組みます			

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	417 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・道の駅飛騨たかね工房は、地域の情報発信及び特産品の直売所としてだけでなく、地域の活性化施設として重要な位置づけとなる施設であるが、年間を通じた安定した集客が困難であるため、施設の運営が非常に厳しい状況にある。よって、施設の安定した運営のため、業務委託料を支出するもの。		
概要	事業の実施手法(手段)	・道の駅飛騨たかね工房の安定した運営のため業務委託料を支出するもの。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・道の駅飛騨たかね工房業務委託料 6,340千円				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	年間営業日数	日	目標値	309	310	309
				実績値	309	310	-
		算出根拠等	達成率(%)	100	100	-	
	成果指標	年間入り込み客数	人	目標値	65,200	61,500	61,500
				実績値	55,701	55,814	-
		算出根拠等	道の駅年間入込客数(観光動態調査)	達成率(%)	85	91	-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等	達成率(%)			-	
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等	達成率(%)			-	
	補足事項						
・H24より特産品の販売に力を入れて実施している。							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	6,340	6,340	6,340	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源			6,340	6,340	6,340	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	114	114	103	
	受益者	年間入り込み客	(B)	55,701	55,814	61,500	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・道の駅本来の役割の他、地場産商品の販売や情報発信を行っており、地場産業・観光産業の欠かせない存在で、市民のニーズは高い。			
		B (1)	ある程度のニーズがある					
		C (0)	ニーズが低い					
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・道の駅本来の役割の他、地場産商品の販売や情報発信を行っており、地場産業・観光産業の欠かせない存在であるが、今後さらに効果のある誘客宣伝の実施や経営改善に努め、経営の黒字化により事業者が自己費用で運営可能となるような取組みが必要である。			
		B (1)	一部見直しが必要である					
		C (0)	市が実施する必要性が低い					
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・道の駅本来の役割の他、地場産商品の販売や情報発信を行っており、地場産業・観光産業の欠かせない存在である。 ・入り込み客数は横ばいであるが、全国的に観光客が落ち込んでいる中では健闘している。			
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である					
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・施設の存続のために最小限の赤字補てん措置を行っている。			
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・道の駅本来の役割の他、地場産商品の販売や情報発信を行っており、地場産業・観光産業を発展させるために欠かせない存在である。			
		B (1)	ある程度効果があった					
		C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計		7	/	10	→	100点換算	70	点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)

・地域の特産品開発、販売の拠点機能をもつ道の駅は、ほかに類似する施設はなく、施設自体は今後も継続していく必要があるが、地域振興特別予算の業務委託料が無くても、経営の黒字化により事業者が自己費用で運営可能となるような取組みが必要である。

(参考) H23事業評価結果(二次評価)

・地域の個性を活かした地場産品の物販・観光の拠点施設であるが、老朽化や採算面から厳しさが増しており、今後のあり方などについて検討する必要がある。

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

・地場野菜の販売の拡充を実施。  
・手打ちそばや定食の販売開始など、魅力あるメニューへの取り組み。  
・効率的なパート利用の実施など人件費の削減。

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・地域の特産品開発、販売の拠点機能をもつ道の駅は、ほかに類似する施設はなく、事業は今後も継続していくが、今後さらに効果のある誘客宣伝の実施や経営改善に努めていく。									

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・地域の個性を活かした地場産品の物販・観光の拠点施設であるが、採算面で厳しさが増しており、今後のあり方などについて検討する必要がある。									

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	72199	地域道路橋りょう管理振興事業費 (市道未登記用地測量事業)	担当課	高根支所 基盤産業課		内線
	72199			3742		
予算	会計	1 一般会計	特別予算 の 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7 土木費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 道路橋りょう費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 道路橋りょう総務費		D	その他事業	
根拠計画						
市長公約						

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根地域の住民	対象者数	417 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	・未登記路線の整備(旧町村時代に、未登記のまま道路整備した路線の登記整理)		
概要	事業の実施手法(手段)	・市道未登記箇所の測量を行い、所有者から寄付により道路用地として高山市へ所有権移転登記を行う。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・市道開拓6号線、池ヶ洞線、黍生線 調査延長 750m (6筆) 登記済 10m (1筆)				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	調査測量済み路線延長	m	目標値	400	800	500
				実績値	300	750	-
	算出根拠等	未登記路線実績調査	達成率(%)	75	94	-	
	活動指標	分筆登記済み路線延長	m	目標値	100	400	400
				実績値	100	10	-
	算出根拠等	未登記路線実績調査	達成率(%)	100	3	-	
	成果指標	未登記整備進捗率	%	目標値	4.0	5.0	6.0
				実績値	3.6	3.7	-
	算出根拠等	分筆登記済み路線延長累計/未登記路線延長(27,244m)	達成率(%)	91	73	-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
	補足事項						
・調査延長は伸びるものの、登記までには所有者の確認等作業が難航し、進捗率は低い状態である。							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	1,957	4,997	5,000	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		1,957	4,997	5,000		
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	4,111	11,055	11,990		
	受益者	(B)	476	452	417		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・官民の土地の境界を明確にするために必要な事業である。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・官民の土地の境界を明確にするために必要な事業であり、所有者から寄付により道路用地として高山市へ所有権移転登記を行う事業であることから、事業主体となることは当然である。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・未登記路線の延長が27,224mと多いため、莫大な時間と費用を要するため、継続して着実に遂行していく必要がある。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・単価契約により土地家屋調査士協会に委託しており、適正である。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外		
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		6 / 8	→	100点換算	75 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・世代交代により、地権者の了解を得るのに時間を要する。
---------------------------------------	-----------------------------

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・H26までに重要路線の未登記処理を解消できるよう取り組んでいく必要がある。
----------------------	--

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・地元町内会の協力を得ながら所有者の確認をし、着実に進めていく。
-----------------	----------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	H24完了予定
	・重要路線の未登記処理は、今後も継続していく必要がある。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	H24完了予定
	・平成26年度までに重要路線の未登記処理を完了できるよう積極的に取り組んでいく必要がある。				

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	94199	花いっぱい運動推進事業	担当課	高根支所 地域振興課		内線
	枝番					3710
予算	会計	1	一般会計	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費	○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	社会教育総務費	D	その他事業	
根拠計画		地域振興計画				
市長公約		4	個人・家庭・地域を大切に社会を築きます。 ・市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業の予算枠を確保します。			

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	417 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・高根地域独特の自然環境を活かした山野草を植栽することで、地域を花で飾り、観光客へのイメージアップと住民の地域への愛着心を高揚させる。		
概要	事業の実施手法(手段)	・花いっぱい用花苗の購入 ・花壇の整備・管理、花苗の植栽等を高山市シルバー人材センターへ委託		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		<ul style="list-style-type: none"> <li>・山野草花苗購入 285千円</li> <li>・花壇維持管理業務 475千円</li> </ul>				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	花いっぱい用花壇の整備箇所数	箇所	目標値	11	11	11
				実績値	11	11	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成果指標	花を楽しむことのできる期間	月	目標値	3	3	3
				実績値	3	3	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成果指標	中学校の郷土学習	学年	目標値			1.0
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度から山野草について、朝日小学校3年生の郷土学習の授業に取り上げられ、山野草への子どもたちの愛着心高揚の一つとなった。</li> <li>・国道361号線を通る山野草ファンも多く車を止めてカメラを構えたり、散策している姿が多くみられる。</li> </ul>							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	791	760	800	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		791	760	800		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	32	37	35	
	受益者	7~9月の道の駅利用者	(B)	24,969	20,816	23,000	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・花いっぱい運動を高根地域全域にほしいと地域から要望がある。 ・山野草のファンには大変ニーズが高く、また一般観光客についても他では見られない高根地域ならではの山野草花壇に関心を示している。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・花壇は国道沿いを中心となっており広範囲に渡るため、町内会等での管理等は困難であるため市が実施しないと維持できない。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・村の花であったヤナギランを中心とした高根地域ならではの山野草花壇で、地域住民の愛着心の高揚につながっている。 ・小学校の郷土学習の一つに取り上げられ、愛着心高揚につながる。 ・国道を中心に11ヶ所整備していることから、観光客のイメージアップにつながっている。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・花苗は補植を中心に行っていることから花苗購入額は抑える事が出来ている。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・花壇の管理等は業務委託のため、自主的なコミュニティ活動に対する効果は少ないが、環境整備に効果がある。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		8 / 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多年草である山野草が定着したあとは、苗の購入は少なくなるが、花壇の管理業務は必要であり、管理体制の検討が必要。</li> <li>・郷土学習の一環として管理業務の作業に参加しセンター会員と小学生とがふれあい、学び、またセンター会員は子どもたちから元気をもらえるようなコミュニケーションづくりの場としていけないか学校側との検討が必要ではある。</li> </ul>
---------------------------------------	---

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「花いっぱい運動」に対しては、当該地域振興予算のほか、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)が直接・間接に助成されており、地域振興特別予算の終期も踏まえた助成のあり方を再検討するとともに、事業費規模などについても検討する必要がある。</li> </ul>
----------------------	--

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・山野草が定植するよう維持管理を行い、また不足する部分について補植等の実施。
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	H24完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高根地域独特の自然環境を活かした山野草を植栽することで、地域を花で飾り、観光客へのイメージアップと住民の地域への愛着心を高揚させる事業であり、今後も継続する。</li> </ul>				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	H24完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「花いっぱい運動」については、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)との整理が必要である。</li> <li>・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、助成のあり方・事業費規模などについて検討する必要がある。</li> </ul>				

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	94699	地域文化振興事業	担当課	高根支所 地域振興課		内線
	枝番					3710
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6 文化振興費		D	その他事業	
根拠計画		地域振興計画				
市長公約		9 伝統文化を守り、次代へ継承します。 ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにもつながる芸術文化活動をさらに浸透させていく。				

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所管内住民	対象者数	417 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・文化芸能祭を通して、地域の伝統・文化を再認識し、地域への愛着、郷土意識を高めることができる。 ・地域の文化振興と地域コミュニティの推進を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・高根地域の文化芸能祭の運営費を社会教育推進協議会へ補助する。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・高根地域の文化芸能祭の運営費を社会教育推進協議会へ補助。				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	高根地区文化祭の開催回数	回	目標値	1	1	1
		実績値		1	1	-	
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成果指標	高根地区文化祭の参加人数	人	目標値	200	200	200
		実績値		200	200	-	
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
				目標値			
	算出根拠等			実績値			-
			達成率(%)			-	
			目標値				
算出根拠等			実績値			-	
			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円) (A)		150	150	150		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		150	150	150		
コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)		315	332	360		
	受益者	高根支所地域全住民 (B)	476	452	417		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・高根地域の少子高齢化が加速する中において、文化交流を通じて地域の連携を図ることのニーズは高い。			
		B (1)	ある程度のニーズがある					
		C (0)	ニーズが低い					
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・地域の公民館等において開催される文化芸能祭等に対し助成されているものである。			
		B (1)	一部見直しが必要である					
		C (0)	市が実施する必要性が低い					
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・この事業は住民の意識も高く、参加率も高いことから十分達成している。 ・事業のマンネリ化しているという意見もあることから、社教と調整しながら事業内容を見直す必要がある。			
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である					
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・この事業は地域の公民館等において開催される文化芸能祭等に助成されているものであり、社教推進委員が手作りで最小限の低コストで実施しているものである。			
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・高根地域の少子高齢化が加速する中において、文化芸能祭を通じて芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出また、地域住民の集いの場となり地域の連携を図り生きがいと活力ある地域創りにつながっている。			
		B (1)	ある程度効果があった					
		C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計		9	/	10	→	100点換算	90	点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・事業内容見直しと今後の補助に対する検討が必要。
---------------------------------------	--------------------------

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・全市的なバランスのなかから、地域振興特別予算の終期も踏まえた助成のあり方の再検討や事業費規模などについて、検討する必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
----------------------	--

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・補助金の有効活用のため、社会教育推進委員会に対する助言等の実施
-----------------	----------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・この事業は、高根の住民の心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、住民の参加率も高く、高根の住民が集う場所でもあるので引き続き継続する。									

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。 ・文化芸術鑑賞事業との関係の整理、実績や効果の検証を行う必要がある。									

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	95199	地域スポーツ振興事業	担当課	高根支所 地域振興課		内線
	枝番					3710
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 体育施設費		D	その他事業	
根拠計画		地域振興計画				
市長公約						

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	417 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各軽スポーツを通して、地域の連携と健康増進を高めることができる。</li> <li>地域のスポーツ振興と地域コミュニティの推進を図る。</li> </ul>		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高根地域の軽スポーツ大会、ふれあい運動会の運営費を社会教育推進協議会へ補助する。</li> </ul>		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	高根地域のスポーツ振興事業を運営する社会教育推進協議会へ補助。					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	軽スポーツ交流大会等の開催回数	回	目標値	5	5	5
		実績値	5	5	-		
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成果指標	高根地区軽スポーツ大会等参加者数	人	目標値	360	360	360
		実績値	360	360	-		
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
				目標値			
	算出根拠等			実績値			-
			達成率(%)			-	
算出根拠等			目標値				
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
<ul style="list-style-type: none"> <li>軽スポーツ交流により高根地域の住民が集い、マンネリ化した生活や心に潤いを醸し出すとともに、地域の連帯感を高め住民の健康・体力の向上と維持、生きがいづくりの場となっている。</li> </ul>							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)(A)		400	400	400		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源	400	400	400			
コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)		840	885	959		
	受益者	高根支所地域全住民(B)	476	452	417		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
① 市民ニーズの確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか</li> <li>社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか</li> </ul>	A (2)	ニーズが高い	A	高根地域の少子高齢化が加速する中において、軽スポーツ交流を通じて地域の連携を図ることのニーズは高い。			
		B (1)	ある程度のニーズがある					
		C (0)	ニーズが低い					
② 市が実施する必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>市が事業主体であることは妥当か</li> <li>国・県・民間の活動と競合していないか</li> </ul>	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	地域住民全員を対象とし、地域の公民館等において開催される軽スポーツ交流大会等に対し助成されているものである。			
		B (1)	一部見直しが必要である					
		C (0)	市が実施する必要性が低い					
③ 活動内容の有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的とする成果があがっているか</li> <li>成果指標などの目標値の達成状況はどうか</li> </ul>	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	ふれあい運動会の110人を筆頭に、参加率も高いことから十分達成している。なお事業内容がマンネリ化しているという意見があることから、社教と調整しながら事業内容を見直す必要がある。			
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である					
④ 執行方法の効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>最小限のコストで事業を実施できているか</li> <li>委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか</li> <li>国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか</li> <li>受益者負担は適正か</li> </ul>	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	事業の効率化・省力化・費用についても毎年検討されているところであるが、特例期間終了を見据えて社会推進委員会と検討する必要がある。			
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤ 政策面における効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか</li> <li>総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか</li> <li>市長公約の実現を図る上で有効に機能したか</li> </ul>	A (2)	効果があった	A	高根地域の少子高齢化が加速する中において、軽スポーツ交流を通じて地域住民が集い・地域の連携を図り・生きがいと活力ある地域創りにつながっている。			
		B (1)	ある程度効果があった					
		C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計		9	/	10	→	100点換算	90	点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	高根地域住民が集う場で参加率も高い事業ではあるが、少子高齢化に伴う事業内容見直しと、今後の補助に対する検討が必要。
---------------------------------------	---

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。</li> <li>特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。</li> </ul>
----------------------	--

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	補助金の有効活用のため、社会教育推進委員会に対する助言等の実施
-----------------	---------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	高根の住民の心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、住民の参加率も高く、高根の住民が集う場所でもあるので引き続き継続する。									

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H24完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。</li> <li>特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。</li> </ul>									

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	20999	地域おこし協力員活用事業	担当課	高根支所 地域振興課		内線
	枝番					3710
予算	会計	1	一般会計	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費	O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画費	D	その他事業	
根拠計画		地域振興計画				
市長公約		合併のメリットを生かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします。 ・地域の個性あるまちづくりと、市域の一体感を創るため、地域が手をとりあって取り組む活動に支援します。				

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	417 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	農山村地域の活性化に意欲のある都市住民が、地域で活動する団体と協働して地域おこし活動に従事し、外部からの視点を活かした地域資源の活用や地域振興策を提案、実施することで地域の活性化を図り、地域力の維持、強化に資する。		
概要	事業の実施手法(手段)	農山村地域の活性化に意欲のある都市住民(若者)を「地域おこし協力員」として委嘱し、地域で活動する地域おこし団体と協働して地域おこし活動に従事する。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・火焔そばを広めるための収穫祭の実施や石仏廻りツアーの実施など特産品の普及や交流人口活動は充実している。				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	地域おこし協力員の人数	人	目標値	1	1	1
		算出根拠等		実績値	1	1	-
	成果指標	地域おこし協力員の活動延べ日数	日	目標値	222	222	222
		算出根拠等		実績値	222	222	-
				目標値			
		算出根拠等		実績値			-
				目標値			
		算出根拠等		実績値			-
補足事項							
成果:H23に石仏廻りツアーを開始したほか、特産品であるそば粉を使用した乾麺の製品化を行い、市内6店舗で販売している。							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)(A)		1,963	2,727	3,300		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源	1,963	2,727	3,300			
コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)		4,124	6,033	7,914		
	受益者	高根支所地域全住民(B)	476	452	417		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域の活性化は、地域住民全員の願いである。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・人口が少なく高齢化率も高いため市として支援が必要である。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・火焔そばを広めるための収穫祭の実施や石仏廻りツアーの実施など特産品の普及や交流人口増の活動は充実してきている。 ・協力員は、平成24年度までの事業となっている。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・人件費が主であり、経費については必要最小限に執行している。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・協同団体において乾麺の製品化やツアー実施が行われる等継続が期待できる成果があった。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		10 / 10	→	100点換算	100 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・平成24年度終了事業であるが、団体の事業継続に不安がある。
---------------------------------------	--------------------------------

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・地元の地域おこし団体が積極的に多くの活動しており、もう少しの間、展開中の事業などの成果が出るまで継続したい。
----------------------	---

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・事業最終年度のため、これまでの成果が協力員が欠けても継続できる点についても考慮して、協働団体を支援する。
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H24完了予定
	・単純な継続は困難であるが、団体の事業が支援なしで継続できる体制づくりの支援が必要である。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H24完了予定

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	20999	地域再発見事業	担当課	高根支所 地域振興課		内線	
	枝番					3710	
予算	会計	1 一般会計	特別予算 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	1 総務管理費		○	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9 企画費			D	その他事業	
根拠計画		地域振興計画					
市長公約		1 積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。					

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	417 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域力向上のため、地域の魅力の発見、地域資源の発掘を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	・地域食料再発見事業 タカネコーン、ほうれん草、火焔そばなど特産品の商品化と販路獲得に向けたアプローチを展開する。 ・看板表示製作事業 地域内に訪れる観光客等に紹介している既存の看板等を見直しを行う。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		<ul style="list-style-type: none"> <li>・そば粉を利用した新レシピの作成(5品目)及び伝統食や既存レシピの作成(6品目)。</li> <li>・新商品等講習会(5回)。</li> <li>・標高看板表示制作(中止)</li> </ul>				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	事業実施数	件	目標値	2	2	2
		算出根拠等		実績値	2	1	-
	活動指標	店舗へのアプローチ	回	目標値			2
		算出根拠等		実績値			-
	成果指標	看板設置箇所	箇所	目標値		20	4
		算出根拠等		実績値		0	-
	成果指標	イベント・店舗等でのそば商品取扱	回・店	目標値		1	5
		算出根拠等		実績値		1	-
				目標値			
		算出根拠等		実績値			-
				目標値			
		算出根拠等		実績値			-
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)(A)		329	494	1,000		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		329	494	1,000		
コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)		691	1,093	2,398		
	受益者	4/1現在高根町住民(B)	476	452	417		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・高根地域の少子高齢化が増加する中において、地域力向上のため地域の魅力の再発見、地域資源の発掘を図ることのニーズは高い。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・地域の個性ある町づくりを推進するために市が実施している。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・そば商品は、冬季のイベントで提供された他、観光事業者の新規体験メニューに組み入れられるなどの成果があった。 ・標高看板については、期待される効果及び地域内の看板に統一性がないことへの検討により執行を中止とした。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・商工会の助言を受け適切に対応した。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・特産品の宣伝が行え、普及に期待できる	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		10 / 10	→	100点換算	100 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・冬季のイベントで提供されたが、継続した提供がなされるよう、地域での取組が必要である。 ・看板については、統一性がない現状の把握と対応を検討する必要がある。
--	---

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・成果の有効活用について検討する必要がある。
----------------------	------------------------

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・そば商品については、高山以外でも知られるよう、他地域での販路拡大に取り組むとともに、イベント等で活用されるよう地域で取り組む。 ・看板について、地域内の全ての看板の状況を地域審議会にも説明する中で、統一性がないという印象緩和の対応を行う。
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H24完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H24完了予定



# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	51399	生活環境保全対策事業	担当課	高根支所 基盤産業課	内線
	枝番				3741
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	5 農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1 農業費		○	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	3 農業振興費		D	その他事業
根拠計画					
市長公約	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。 ・有害鳥獣対策が緊急の課題であるため、駆除と防御事業を強化し、併せて駆除鳥獣の加工販売など活用方策について具体的に取り組みます。			

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根地域の住民	対象者数	417 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・有害鳥獣による被害を防止するため、集落の周囲に進入防止柵を設置し、安心して暮らせる地域づくりを目指す。		
概要	事業の実施手法(手段)	・有害鳥獣侵入防止柵等の設置に対する助成		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	・日和田町内会が実施した簡易獣害防止柵設置に対する助成 事業量 柵設置 L=2,000m 事業費 5,728,590円 補助金 4,582,000円 ・留之原町内会が実施した簡易獣害防止柵(電柵)設置に対する助成 事業量 柵設置 L=6,100m 事業費 3,022,720円 補助金 2,418,000円					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	施工延長	m	目標値	35,000	35,000	35,000
				実績値	13,267	21,367	-
	算出根拠等	事業計画、実績		達成率(%)	38	61	-
				事業実施箇所数	地区	目標値	2
	成果指標	事業実施箇所数	地区	実績値	2	2	-
				算出根拠等	補助金交付申請書	達成率(%)	100
	算出根拠等			目標値			
				実績値			-
算出根拠等			達成率(%)			-	
			目標値				
算出根拠等			実績値			-	
			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	7,968	7,000	7,000	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		7,968	7,000	7,000		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	16,739	15,487	16,787	
	受益者	4/1現在高根町住民	(B)	476	452	417	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・未だ防止柵等を設置していない地域にあっては、有害鳥獣による被害があり、駆除または侵入防止柵等の設置希望がある。			
		B (1)	ある程度のニーズがある					
		C (0)	ニーズが低い					
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	評価対象外	・町内会が行う事業に対する補助である。			
		B (1)	一部見直しが必要である					
		C (0)	市が実施する必要性が低い					
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・補助希望のある地域から順次実施し、その成果は十分ある。			
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である					
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・各地区で見積書を徴収し、事業費算定している。コスト縮減のため複数の業者より見積書の上実施するよう依頼している。			
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・市長の約束にもある有害鳥獣の進入防止施策であり、地域振興計画にもあり、有効に機能している。			
		B (1)	ある程度効果があった					
		C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計		8	/	8	→	100点換算	100	点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)

・本事業の実施は、地域住民の生活環境を保全する上で有効な施策であり、その効果も大である。  
 なお、インシシ等による生活環境への被害を防止するため、防護柵等の設置をするものであるが、市道等には設置できないため、別の対策が必要となる。また、猿被害の防止は別途検討する必要がある。

(参考) H23事業評価結果(二次評価)

・鳥獣被害は深刻な問題であり、早急に対応する必要がある。

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

・補助金の交付希望のあった町内会から対応しているが、予算の都合により一部翌年度対応する。  
 ・新規希望については、現在町内会と調整中である。

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・町内会と調整の上実施する。									

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・鳥獣被害は深刻な問題であり、早急に対応する必要がある。 ・一般予算とのバランスに配慮し実施する必要がある。									

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	62399	観光施設環境整備事業	担当課	高根支所 地域振興課	内線
	枝番				3710
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6 商工観光費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 観光費		○	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	2 観光施設費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				
市長公約	1	積極的な観光振興策を実施します。 ◎最新の媒体を駆使し、多様な誘客を行います。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。			

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	417 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・老朽化した湯元山荘を撤去し、利用者の満足度を高める。		
概要	事業の実施手法(手段)	・老朽化した湯元山荘を撤去する。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	・なし					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	湯元山荘撤去	個所	目標値			1
		実績値				-	
	算出根拠等			達成率(%)			-
	成果指標	露天風呂案内人数	人	目標値			50
		実績値				-	
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			-
				実績値			-
算出根拠等			達成率(%)			-	
			目標値			-	
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円) (A)		0	0	4,500		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源				4,500		
コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)				10,791		
	受益者	4/1現在高根町住民 (B)			417		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	・H24新規事業	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	・H24新規事業	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	・H24新規事業	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	・H24新規事業	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	・H24新規事業	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		/	→	100点換算	評価対象外 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)

(参考)  
H23事業評価結果(二次評価)

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H24完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H24完了予定

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	20899	地域財産管理事業	担当課	高根支所 地域振興課		内線	
	枝番					3710	
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	2 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	1 総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	8 財産管理費		O	その他事業		
根拠計画		地域振興計画					
市長公約							

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	417 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・市有地の適正管理		
概要	事業の実施手法(手段)	・市有地を含めた子ノ原高原の土地、道路等の適正な維持管理		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	・市所有面積2,800坪に応じた負担金76,020円=(1,000坪×40円+1,800坪×18円)×1.05					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	財産管理面積	坪	目標値	2,800	2,800	2,800
				実績値	2,800	2,800	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成果指標	当該財産の見回り点検	日	目標値	7	7	7
				実績値	7	7	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	算出根拠等			目標値			
	算出根拠等			実績値			-
算出根拠等			達成率(%)			-	
算出根拠等			目標値				
算出根拠等			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	77	77	77	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		77	77	77		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	162	170	185	
	受益者	高根支所地域全住民	(B)	476	452	417	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	C	・市有地の適正な管理は、市の財産を守る上からも全市民への市有地の適正な管理及び地域を訪れる観光客等へのイメージアップにも波及効果がある。			
		B (1)	ある程度のニーズがある					
		C (0)	ニーズが低い					
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・財産を所有している限りは適正な管理が必要である。 ・使用目的が無い			
		B (1)	一部見直しが必要である					
		C (0)	市が実施する必要性が低い					
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・適正に管理されている。			
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である					
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外				
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	評価対象外				
		B (1)	ある程度効果があった					
		C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計		2	/	6	→	100点換算	33	点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・財産を所有している限りは負担が必要であり、今後、有効活用が図られなければ、処分についての検討が必要である。
---------------------------------------	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・未利用施設の有効活用を図る一方で、不要施設については、解体・売却等の処分を進めるなど、統一的な考え方のもとで課題解決していく必要がある。
----------------------	---

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・他の未利用となっている市有地や施設等の売却等処分について、統一的な考え方の検討の実施。
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・財産を所有している限りは負担が必要である。他の市有財産の処分等統一的な考え方にに基づき実施する。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	(担当課評価に同じ)				

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	31399	地域老人福祉推進事業費 (冬季高齢者住宅開設事業)	担当課	高根支所 地域振興課	内線	3710
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	3 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 社会福祉費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3 老人福祉費		O	その他事業	
根拠計画		地域振興計画				
市長公約		5 医療福祉を充実させます ・在宅介護支援を含め、高齢者集合住宅の拡充施策に取り組みます。				

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	417 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・空き施設の有効利用と高齢者が安心して暮らせる地域づくりをめざすことを目的とする。		
概要	事業の実施手法(手段)	・冬季高齢者住宅開設 開設期間 12月～翌3月 事業主体 高山市社会福祉協議会 旧学校教員住宅を使用 施設利用に伴う施設改修、維持管理費		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物管理経費 451千円</li> <li>・トイレ等修繕費 2,140千円</li> <li>・社協への補助金 1,800千円</li> </ul>						
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24	
	活動指標	冬季高齢者集合住宅開設月数	月	目標値	4	4	4	
				実績値	4	4	-	
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-	
	成果指標	施設利用者数	人	目標値	17	17	17	
				実績値	14	11	-	
	算出根拠等			達成率(%)	82	65	-	
	算出根拠等			達成率(%)	-	-	-	
	算出根拠等			達成率(%)	-	-	-	
算出根拠等			達成率(%)	-	-	-		
算出根拠等			達成率(%)	-	-	-		
補足事項								
・成果: 自宅だと積雪等により、運動量や地域住民との会話が無くなる中、利用者やボランティアと交流により体を動かし、また、会話を楽しむ中で健康が維持され安心感も得ている。								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額			
	歳出(千円)		(A)	2,770	4,391	2,530		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)			1,100	1,500		
		一般財源			1,670	2,891	2,530	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	197,857	399,182	148,824		
	受益者	施設利用者	(B)	14	11	17		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・冬季生活の安定を望む高齢者のニーズは高い。 ・高齢化率は約50%と高く、独居・高齢者世帯も多く、ニーズは高い。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・地域医療福祉を充実させることの政策的な重要性は高い。 ・事業主体は、高山市社会福祉協議会で実績も良好であり、見直す必要はない。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・12月から翌3月まで安定して開設している。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・事業内容を精査しながら改善、工夫に取り組んでいる。 ・自宅での生活が除雪をはじめとする問題で困難になる冬季に限った開設であり、他の季節の施設利用は無い。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・遊休市有施設の再利用により地域福祉医療の充実と地域活性化を図ることの有効性は高い。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		7 / 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・冬季利用だけではなく、その他の季節の有効活用の検討や入居者の負担割合等について協議が必要である。
---------------------------------------	---

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・高根地域において高齢者への支援策として重要な事業であるが、旧職員住宅の冬季以外の有効活用を検討する必要がある。
----------------------	--

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・運営補助金のあり方や冬季以外の季節での利用方法の検討。
-----------------	------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・特に冬期間とじこもりがちとなる高齢者に「集団生活」による安心感を提供し、地域の高齢者への支援策として重要な事業であることから継続する。また、冬季以外の活用についても検討する。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	(担当課評価に同じ)				

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	42299	食用廃油回収事業	担当課	高根支所 地域振興課		内線	
	枝番					3710	
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	4 衛生費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	2 清掃費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	2 塵芥処理費		O	その他事業		
根拠計画		地域振興計画					
市長公約		8 豊かな自然を守り、環境モデル都市をつくります。 ・地域温暖化の対策、生物多様性の保全活用など、環境保全は今を生きている全ての人が取り組まなければならない重要な問題であるため、バイオマスの利活用や間伐材・林地残材製品の開発など、環境改善につながる取り組みを支援します。					

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	417 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・食用済食用油を回収、精製処理し、リサイクル燃料として使用することにより、市民のリサイクル意識の向上を図るとともに、地域温暖化対策を推進する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・一般家庭より排出される食用廃油、月1回4箇所の資源ごみ拠点集積所で回収する。 ・回収した食用廃油は、朝日支所の処理施設で精製し、公用車の燃料(BDF)として活用する。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・延べ12回開設 回収量79ℓ				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	食用廃油回収箇所	箇所	目標値	4	4	4
		実績値			4	4	-
		算出根拠等		達成率(%)	100	100	-
	成果指標	食用廃油回収量	ℓ	目標値	100	100	100
		実績値			96	79	-
		算出根拠等		達成率(%)	96	79	-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	36	37	50	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源		36	37	50	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	76	82	120
受益者		高根支所地域全住民	(B)	476	452	417	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・住民のリサイクル意識、再資源化に向けたニーズがある。			
		B (1)	ある程度のニーズがある					
		C (0)	ニーズが低い					
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・地球温暖化対策、環境対策につながることから政策的な重要性は高い ・民間による回収ルートが確立できれば見直しが必要			
		B (1)	一部見直しが必要である					
		C (0)	市が実施する必要性が低い					
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・回収率が減少しているがリサイクル意識の向上が図られている。			
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である					
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・シルバー委託によりコスト縮減がある程度図られている。			
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・リサイクル意識の向上をさらに図っていく必要がある。			
		B (1)	ある程度効果があった					
		C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計		5	/	10	→	100点換算	50	点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・回収方法の検証を図る。
---------------------------------------	--------------

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・環境に対する効果を検証する必要がある。なお、コスト面を考慮に入れ、全市民的な取り組みの実施について検討する必要がある。
----------------------	--

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・事業の必要性を考慮しながら回収方法を隔月の検討する。
-----------------	-----------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・事業の必要性を考慮しながら回収方法を隔月の実施に向けて検討する。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・環境に対する効果、コスト面、精製処理した油の需要等を比較し、全市民的に事業の実施方針・規模について検討する必要がある。				

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	51399	ワークキャンプ活用事業	担当課	高根支所 基盤産業課	内線
	枝番				3742
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	5 農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1 農業費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	3 農業振興費		O	その他事業
根拠計画	地域振興計画				
市長公約	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ◎次代につながる農業を実現します ・飛騨高山のブランドにふさわしい、生産者の顔が見える安全で安心な付加価値の高い産地産品づくりに取り組みます。				

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	タカネコーン生産組合	対象者数	30 戸
	どういう状態にしたいのか(意図)	・タカネコーン生産組合が主催する「タカネコーン収穫祭」のスタッフとしてNPO法人NICEから受け入れし、人手不足の解消とブランド化の推進に資する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・NPO法人NICEへの負担金		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	・NPO法人NICEへの負担金 50,943円 8/26~8/28 ワークキャンプ開催					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	NPO法人NICEへの負担金	千円	目標値	100	100	100
				実績値	98	51	-
	算出根拠等	予算・決算額	達成率(%)	98	51	-	
	成果指標	タカネコーン販売額	千円	目標値	5,200	5,200	5,200
				実績値	5,200	1,715	-
	算出根拠等	タカネコーン生産組合決算	達成率(%)	100	33	-	
	成果指標	タカネコーン販売数	千本	目標値	22.0	22.0	22.0
				実績値	22.0	7.5	-
	算出根拠等	タカネコーン生産組合決算	達成率(%)	100	34	-	
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	98	51	100	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源			98	51	100	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	3,267	1,700	3,333	
	受益者	生産組合構成農家	(B)	30	30	30	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域の高齢化により、収穫祭のスタッフを確保するのが困難な状況にあり、生産組合からの要望が強い。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・「飛騨高山のブランドにふさわしい、付加価値の高い産地産品づくりに資するものであるが、定着化されれば組合事業として移行できる。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・生産組合を構成する農家が高齢化してきている中で、概ね前年度と同等の販売額、販売数量を維持しており、成果は十分ある。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・生産組合とNICEとの交流がこれまで継続している中で、コスト縮減のために他のボランティアの受入等については慎重に検討する必要がある。必要最小限の経費で、組合でも食材等負担している。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・標高の高さを生かし栽培される糖度の高いタカネコーンは、市長公約の「飛騨高山のブランドにふさわしい、付加価値の高い産地産品づくりに取り組みます」に該当し、政策面での効果は大きい。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		8 / 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)

・地域の代表的な農産物であるタカネコーンのブランド力を維持していくため今後も継続していくことが理想であるが、生産組合の体制強化により組合独自の事業として移行する方向で検討する必要がある。

(参考) H23事業評価結果(二次評価)

・スタッフの確保に対する負担金支出であることから、別の方策を考える必要がある。

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

・生産組合と今後の実施方針等調整する。

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・ブランド力の向上と生産組合の体制強化のため、当面継続する。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・一時的なスタッフの確保に対する負担金支出であることから、ブランド力強化のための別の方策を考える必要がある。				

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	62199	野麦峠における交流促進事業	担当課	高根支所 地域振興課		内線
	枝番					3710
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 観光振興費		O	その他事業	
根拠計画		地域振興計画				
市長公約		1 積極的な観光振興策を実施します。 ・最新の媒体を駆使し、多様な誘客を行います。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。				

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	417 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・女工哀史で全国的に知られる野麦峠を中心とした観光PRIにより観光客の増加を図るとともに、隣接する松本市と野麦峠における交流を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・野麦峠まつり ・映画「あゝ野麦峠」上映会 ・柳ヶ瀬物産展 ・野麦峠トレイルラン 野麦峠PRのため上記イベント経費の一部を負担。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・野麦峠まつり ・映画「あゝ野麦峠」上映会 ・柳ヶ瀬物産展 ・野麦峠トレイルラン 野麦峠PRのため上記イベント経費の一部を負担。				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	イベント回数	回	目標値	2	4	3
				実績値	2	4	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	活動指標	松本市との交流イベント回数	回	目標値	1	2	1
				実績値	1	2	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成果指標	野麦峠年間入込客数	千人	目標値	25,000	25,000	25,000
				実績値	23,376	20,705	-
	算出根拠等		野麦峠年間入込客数(観光動態調査)	達成率(%)	94	83	-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	863	300	300	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源			863	300	300	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,813	664	719
受益者		4/1現在高根町住民	(B)	476	452	417	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域の活性化と生活基盤の確立のため、野麦峠を中心とした観光産業は欠かせない存在で、市民のニーズは高い。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・地域の活性化と生活基盤の確立のため、野麦峠を中心とした観光産業は欠かせない存在であるが、一部イベントでは観光協会等による運営が可能となるような取り組みが必要である。 ・市所有の工女衣裳を活用するため、クリーニング費用などの負担が大きく助成が必要である。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・イベントには県内外より多数の来客があり、観光PR効果は充分である。 ・入り込み客数は減少しつつあるが、全国的に観光客が落ち込んでいるため、今後も地道な取り組みが必要である。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・事業のコスト縮減がある程度図られている。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・松本市との合同イベントにより、同市との交流が図られている。 ・また、イベントには県内外より多数の来客があり、観光PR効果も充分ある。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		9 / 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・民間(観光関係団体等)が運営可能な体制づくりについて検討する必要がある。
---------------------------------------	---------------------------------------

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・民間(観光関係団体等)主体への移行について検討する必要がある。 ・特例期間終了を見据え、地域への波及効果などの分析を行いつつ、行政の関与を段階的に縮小していく必要がある。
----------------------	---

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・民間(観光関係団体等)と協力・引継ぎをしながら運営体制を作る。
-----------------	----------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	O	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・野麦峠は、高根地域の主要な観光ポイントであると同時に、高山市街地への誘客効果も期待できるため、観光客の増加を図るために有効な事業である。地域全体の機運もあがっており、今後も野麦峠まつりなどの関連事業を引き続き行っていく必要がある。 ・平成27年度以降、工女衣裳の維持管理に必要な経費を除き、市の助成なしでやっていけるよう、飛騨高根観光協会へ引き継いでいく。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大	O	縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・民間(観光関係団体等)主体への移行について検討する必要がある。 ・特例期間終了を見据え、地域への波及効果などの分析を行いつつ、行政の関与を段階的に縮小していく必要がある。									

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	62399	地域観光施設事業	担当課	高根支所 地域振興課	内線
	枝番				3710
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	2 観光施設費		O	その他事業
根拠計画	地域振興計画				
市長公約	1	積極的な観光振興策を実施します ◎最新の媒体を駆使し、多様な誘客を行います。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。			

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	417 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・野麦峠の観光施設について、特に危険性のある個所や利用者からの不満が多い個所について改善していくことで、観光客の満足度をアップさせ、誘客に結び付ける。		
概要	事業の実施手法(手段)	・野麦峠東屋修繕、野麦峠の館トイレの洋式化		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	なし					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	修繕箇所	箇所	目標値			2
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
	成果指標	野麦峠観光客数	人	目標値	25,000	25,000	25,000
				実績値	23,385	20,705	-
		算出根拠等	野麦峠年間入込客数(観光動態調査)	達成率(%)	94	83	-
				目標値			-
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			-
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)(A)		0	0	1,300		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源				1,300	
コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)	0	0	52			
	受益者 野麦峠観光客(B)	23,385	20,705	25,000			

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	・H24新規事業
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	・H24新規事業
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	・H24新規事業
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	・H24新規事業
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	・H24新規事業
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	/	→	100点換算	評価対象外 点
----	---	---	--------	---------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)

(参考) H23事業評価結果(二次評価)

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H24完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H24完了予定



# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	62499	地域自然公園等管理事業	担当課	高根支所 基盤産業課		内線
	枝番					3742
予算	会計	1	一般会計		A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2	観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	4	自然公園費		O	その他事業
根拠計画		地域振興計画				
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します ◎新たな観光資源を発掘し活用します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。			

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	登山道利用者	対象者数	未確定
	どういう状態にしたいのか(意図)	・乗鞍登山道のうち、子ノ原及び阿多野郷ルートの草刈等整備を実施し、登山道を地域資源として活用し、地域の活性化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・シルバー人材センターへの委託		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・子ノ原及び阿多野郷からの登山道の草刈(登山道入り口より8km)				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	草刈等実施の延長	km	目標値		8	9
				実績値		8	-
	算出根拠等	図上	達成率(%)		100	-	
	成果指標	登山道利用者数	人	目標値		20	30
				実績値		18	-
	算出根拠等	問い合わせ電話等による推計	達成率(%)		90	-	
	算出根拠等			目標値			
				実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-	
	算出根拠等			目標値			
				実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-	
	補足事項						
・登山客の実績については、入山者を把握することが困難であることから、キャンプ場管理者等の聞き取り及び支所への問い合わせ電話等から推計している。							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	0	448	600	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源			448	600		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	24,889	20,000		
	受益者	登山道利用者	(B)	18	30		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・観光振興の点から、また一部登山者から、過去に整備されていた登山道が現在利用できないため、登山道の草刈等について要求がある。			
		B (1)	ある程度のニーズがある					
		C (0)	ニーズが低い					
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・観光振興の観点から、市以外に実施する団体は無い。			
		B (1)	一部見直しが必要である					
		C (0)	市が実施する必要性が低い					
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・登山客の実人員は把握していないが、電話等問い合わせからもある程度の成果が見込まれる。			
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である					
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・シルバー人材センターへの委託により、遠隔地・急傾斜地等にも関わらず、適正なコストにて実施することができた。			
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・地域資源である登山ルートの整備により、登山客等の利用増大が図られ、地域振興計画、市長公約の施策推進にも効果があった。			
		B (1)	ある程度効果があった					
		C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計		8	/	10	→	100点換算	80	点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・キャンプ場管理者等において、ある程度の登山客数把握が必要である。また、毎年継続して実施していくことが登山者の増加につながるものとする。
---------------------------------------	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・いくつかの地域で登山道整備があるが、今後は有効なもののみを選択していく必要がある。
----------------------	--

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・昨年に引き続き、乗鞍登山道の草刈等を実施する。また、新たに御岳登山道の草刈も実施する。 ・登山客の把握については、キャンプ場管理者と協議を進めるとともに、利用者への便宜を図るため、看板等を設置する。
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・地域振興及び利用者の利便性や安全性の確保の観点から、引き続き継続していく。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、登山道整備(全体)の方針について検討する必要がある。				

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	72299	住みよい地域づくり事業	担当課	高根支所 基盤産業課		内線
	72299			3741		
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7 土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 道路橋りょう費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2 道路橋りょう維持費		O	その他事業	
根拠計画						
市長公約 6 市民の生活と生命・財産を守ります。 ・支所地域と市街地を結ぶ主要道路の整備や都市計画道路の整備を進めます。						

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民及び観光客	対象者数	417 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・集落間を結ぶ市道の除草等により、市民及び観光客等の通行の安全確保を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・シルバー人材センターへの委託		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・市道 5路線 8.5km の草刈及び清掃				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	実施路線数	路線	目標値	3	5	5
				実績値	3	5	-
	算出根拠等	仕様書	達成率(%)	100	100	-	
			目標値	7,000	8,500	8,500	
	成果指標	実施延長	m	実績値	7,000	8,500	-
				達成率(%)	100	100	-
	算出根拠等	仕様書(市道台帳より)	目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
			目標値				
	算出根拠等		実績値			-	
			達成率(%)			-	
	算出根拠等		目標値				
実績値					-		
算出根拠等		達成率(%)			-		
		補足事項					
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円) (A)		229	462	600		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源		229	462	600	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)		481	1,022	1,439	
受益者		4/1現在高根町住民 (B)	476	452	417		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・高齢化が進む中、集落間道路まで地域住民ではできなくなってきたため、要請が多くある。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市の管理する道路であり、市民にとっても重要な路線でもあることから、当然市が事業主体として実施すべきものである。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・予定された箇所については、実施され成果をあげているが、高齢化とともに今後集落内の整備についても検討していく必要もある。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・最小の予算で最大の効果が出せるよう、事業実施において適正な事業費となるよう、シルバー人材センターと打合せを行っている。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・住みやすい街づくりの「6 市民の生活と生命のち・財産を守ります」中、「・支所地域と市街地を結ぶ主要道路の整備や都市計画道路の整備を進めます。」の推進事業であり、大きな効果がある。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		10 / 10	→	100点換算	100 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)

・これまで各地域ごとに草刈等してきたが、高齢化により実施が難しい地域が増加してきており、今後益々シルバー人材センター等への依存が高くなることが予測される。

(参考) H23事業評価結果(二次評価)

・地域の景観、環境を保全するため実施しているが、合併特例期間終了後は、全市的に実施路線を検討する必要がある。

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

・地域の需要に応え、安全安心な生活道路を確保するため、前年同様継続していく。

次年度の 実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・地域の需要を考慮しつつ、当面現状で継続していく。				

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・地域の景観、環境を保全するため実施しているが、特例期間終了後は、全市的に実施路線を検討する必要がある。				

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	95299	地域体育施設維持管理事業	担当課	高根支所 地域振興課		内線	
	枝番					3710	
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	2 体育施設費		O	その他事業		
根拠計画		地域振興計画					
市長公約		高地トレーニングエリアの誘客宣伝及び雇用促進					

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	飛騨高山御嶽トレーニング利用者	対象者数	2,200 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・高地トレーニング強化拠点施設として、飛騨高山御嶽トレーニングセンターの看板を設置し、誘客宣伝活動により実施集客率の向上に努めるとともに年間を通した雇用促進を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・飛騨高山御嶽トレーニングセンターのランナー注意看板を設置		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		<ul style="list-style-type: none"> <li>・案内看板の設置</li> <li>・夜間照明の設置</li> </ul>				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	看板の設置	基	目標値		10	5
				実績値		10	-
	算出根拠等			達成率(%)		100	-
	活動指標	夜間照明の設置	基	目標値		3	
				実績値		3	-
	算出根拠等			達成率(%)		100	-
	成果指標	飛騨高山御嶽トレーニングセンターの利用者	人	目標値	1,000	2,000	2,300
				実績値	1,474	2,208	-
	算出根拠等			達成率(%)	147	110	-
	成果指標	飛騨御岳高原高地トレーニングエリア合宿利用者	人	目標値			19,000
				実績値	16,679	17,584	-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円) (A)		0	3,621	800		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源			3,621	800		
コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)			1,811	364		
	受益者	飛騨高山御嶽トレーニング利用者 (B)		2,000	2,200		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・案内看板については、利用者から場所が分かりにくい、地域から利用者に説明がしづらいという意見があるなどニーズが高い。 ・夜間照明については、涼しい時間帯の利用であるがニーズは少ない。			
		B (1)	ある程度のニーズがある					
		C (0)	ニーズが低い					
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市の施設である高トレセンターの維持管理・誘導に要する費用、及びエリア全体を宣伝していくためのものであり、市が行うもの。			
		B (1)	一部見直しが必要である					
		C (0)	市が実施する必要性が低い					
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・案内看板により、高トレセンターへの案内・誘導が分かりやすくなり、成果は十分上がった。 ・夜間照明については利用者が少なく、成果が少ない			
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である					
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・案内看板及び夜間照明は適正に設置した			
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・案内看板については、高トレエリアがわかりやすくなり利用しやすくなった他、高地トレーニングエリアの宣伝に役立っている。 夜間照明については、利用者が少なく誘客に結びついていない。			
		B (1)	ある程度効果があった					
		C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計		7	/	10	→	100点換算	70	点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・グラウンド(夜間照明施設)の利用者を増やす必要である。
---------------------------------------	------------------------------

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・維持経費として、夜間電気使用料の対応を行う。</li> <li>・地域体育施設を結ぶ公道を走る利用者の安全確保を図る必要がある。</li> </ul>
----------------------	---

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域体育施設を結ぶ公道を走る利用者の安全確保を図るため、ランナー注意看板を設置する。</li> <li>・夜間電気使用料の検討を所管課において検討する。</li> </ul>
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	H24完了予定
	・夜間電気使用料について条例化された後は、夜間も屋外でトレーニングができることを誘客の材料にも活用し、夜間照明の維持管理を行う。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	H24完了予定
	・ランナーが安全に利用できるよう施設の維持管理を行うとともに、利用者増の方策について検討する必要がある。					

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	20999	地域振興助成事業 (地域振興事業補助金)	担当課	高根支所 地域振興課		内線
	枝番					3710
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9 企画費		O	その他事業	
根拠計画		地域振興計画				
市長公約		「合併のメリットを生かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします。」 ・地域の個性あるまちづくりと、地域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取り組む活動に支援します。				

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	417 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進するため、市民自らが主体となって取組む地域振興事業を支援する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・地域の住民が自主的、主体的に取り組む公共性の高い地域づくりへの補助		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・美化運動事業(3件)、高トシ誘客宣伝事業、日和田石仏環境整備事業、古道整備事業、史跡保存事業、エンパワメント事業、高根町火焔そばまつり事業、ミナモ雪像づくり事業、アンテナショップ運営事業				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	地域振興事業補助金採択件数	件	目標値	10	10	10
		算出根拠等		実績値	10	11	-
				達成率(%)	100	110	-
	算出根拠等			目標値			
				実績値			-
				達成率(%)			-
	算出根拠等			目標値			
				実績値			-
				達成率(%)			-
	成果指標	地域振興事業補助金実績額		目標値	2,000	2,000	2,500
		算出根拠等		実績値	1,967	1,786	-
				達成率(%)	98	89	-
	算出根拠等			目標値			
			実績値			-	
			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	1,967	1,786	2,500	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		1,967	1,786	2,500		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	4,132	3,951	5,995	
	受益者	4/1現在高根町住民	(B)	476	452	417	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・美化運動、史跡等の環境整備、国体の盛り上げ事業など様々なニーズがある。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・補助により、市民自らが主体となって取り組むことができる。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・史跡の環境整備や火焔そばまつりの織旗など単年度で完結する事業は、後年度の費用負担を大幅に軽減しており、引き続き市民が主体となって維持・継続する上で大きく貢献している。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・それぞれ最小限のコストとなるよう努めている。 ・毎年継続している事業は、特別予算終了後に向けた見直しが必要となっている。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・史跡の整備や特産品の普及等につながる事業において、市長公約の「地域の個性あるまちづくり」に効果があった。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		10 / 10	→	100点換算	100 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・将来的に補助できないものについては、その旨を団体に説明しなければならない。又、内容によっては一般予算の助成制度に該当する事業に見直すなど調整が必要である。
---------------------------------------	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降を検討する必要がある。
----------------------	---

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・将来的に補助できないものについては、その旨を地元へ説明しながら徐々に補助額を減額していく。また、一般予算の補助制度等に該当する事業内容に見直しが可能かどうかについて団体に、助成制度を説明していく。
-----------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・新規事業については、特別予算終了前に完結、あるいは終了後は補助なしで継続できるよう協議しながら実施する。 ・継続事業については、事業内容等の見直しにより、他の補助制度等に移行可能な事業は移行するとともに、移行困難な事業については、事業規模の縮小を協議しながら継続する。				

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、平成27年度以降の対応について検討する必要がある。				

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	20999	地域要望対応事業	担当課	高根支所 地域振興課		内線
	枝番					3710
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9 企画費		O	その他事業	
根拠計画		地域振興計画				
市長公約		「合併のメリットを生かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします。」 ・地域の個性あるまちづくりと、市域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取り組む活動に支援します。				

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高根支所地域全住民	対象者数	417 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・市有施設で地域からの要望に即応するもの		
概要	事業の実施手法(手段)	・市道、農道、水路等の公共施設の軽微な修繕		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	・排水路修繕、用水路修繕、用水路取水口修繕、転落防止柵修繕、街路灯修繕、冬季高齢者住宅浄化槽修繕、バス停修繕					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	地域要望対応事業採択件数	件	目標値	11	7	10
		算出根拠等		実績値	11	7	-
	成果指標	地域要望対応事業実績額	千円	目標値	2,500	2,500	4,000
		算出根拠等		実績値	2,196	2,025	-
				達成率(%)	88	81	-
		算出根拠等		目標値			-
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円) (A)		2,196	2,025	4,000		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源	2,196	2,025	4,000			
コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)		4,613	4,480	9,592		
	受益者	4/1現在高根町住民 (B)	476	452	417		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・広大な面積の中、施設などの老朽化も多く、市民が安心して暮らすための改善や要望は多数ある。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設の修繕である。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・住民の要望に即応する事業であることから十分な成果があがっている。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・最小限のコストで適正に実施されている。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・地域の個性あるまちづくりを推進する上で政策的に効果がある。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		10 / 10	→	100点換算	100 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応を検討する必要がある。
----------------------	--

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・引き続き実施する。
-----------------	------------

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・引き続き実施する。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、平成27年度以降の対応について検討する必要がある。				

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	21100	土地借上料	担当課	高根支所 基盤産業課		内線	
	枝番					3741	
予算	会計	9	簡易水道事業特別会計	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	2	総務費	○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	1	総務管理費	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	1	一般管理費	D	その他事業		
根拠計画							
市長公約	6	市民の生活と生命いのち・財産を守ります。 ・安全安心な上水道を提供するため、施設の整備を加速するとともに、未給水地域の解消に努めます。					

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	簡易水道施設地主	対象者数	14 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・水道施設用地の借上料		
概要	事業の実施手法(手段)	・市の基準を上回る土地賃貸借		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	・高根町地内 8施設 土地所有者 14名 246千円					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	土地賃借契約者数	人	目標値	14	14	14
				実績値	14	14	-
		算出根拠等	契約書	達成率(%)	100	100	-
	成果指標	給水人口	人	目標値	476	452	417
				実績値	456	425	-
		算出根拠等	給水人口調べ	達成率(%)	96	94	-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)				-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)				-
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	246	206	149	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源		246	206	149	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	17,571	25,750	29,800	
	受益者	基準外の土地所有者	(B)	14	8	5	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・市民への安心安全な水道を提供するため、施設敷の借上げ又は用地買収といった施策は必要不可欠なものである。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・公益性から妥当である。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・安心安全な上水道の提供に寄与している。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・契約更新時に市の基準により契約できるよう所有者と引き続き交渉していく。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・安心安全な上水道の提供に寄与しており効果がある。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		9 / 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・市の基準に近づよう単価交渉を継続する必要がある。
--	---------------------------

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・市の基準に近づよう単価交渉を継続する必要がある。
----------------------	---------------------------

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・次年度契約に当たり、所有者と交渉をする。
-----------------	-----------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・土地賃借料が市の基準となるよう所有者との単価交渉を継続的に進めた結果、基準外の土地所有者は減少してきた。今後も安心安全な水の供給のため、引き続き交渉を継続する。									

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・市の基準に近づよう単価交渉を継続する必要がある。									